

INTERVIEW

インタビュー・加藤登紀子さんに聞く

加藤登紀子さん Tokiko Kato

1965年、東京大学在学中に歌手活動に入る。年間100本を超えるコンサートを行うなど、精力的な音楽活動を重ね、実力派アーティストとして数多くのヒット曲をもつ。2000年以來、UNEP（国連環境計画）親善大使として、タイ、フィジー、インド等を訪問。著作、陶芸、書などの分野でも意欲的に創作を続けている。ニューアルバム「今があたりと出逢う時」を2004年11月26日に発表。

地域の伝統産業や生活文化を尊重したきめ細かな援助を

——加藤さんはこれまでさまざまな開発途上国を訪ねておられます。そこで、今日は円借款事業についてどのように感じていらっしゃるかを伺いたと思います。

加藤 円借款は開発途上国のさまざまなインフラ整備を支援していますが、率直に言って、その方法にもっと多様性があった方がいいと考えています。インフラが未整備の地域に大きな発電プラントや下水処理場をつくる。それ自体はとてもいいことだと思いますが、反面、そうした活動が、地域ならではの伝統的な文化や生活様式を壊してしまう可能性もはらんでいます。ですから、こうした点に配慮したきめ細かな援助がもっと増えるといいな、と考えています。

——最近ではそうした観点から、マイクロクレジット（貧しい人々の経済的自立を支援するために、少額の資金を無担保で融資する制度）などの手法を活用し始めています。

加藤 本当に必要とする人に必要な融資がなされるという点で、マイクロクレジットはとてもいい方法だと私も思います。インドで活動しているNGOの方にお聞きしたんですが、彼らがめざしているのは「ローテクのハイテク化」だと言うんですね。炭で炊いているご飯のかまどを少ない燃料で上手に炊



ける鍋にしていくな。こうした、いわば大変化ではなく、小さな変化の積み重ねを促すような制度がもっと活発になっていけばいいですね。

「自然と歩み寄って生きてきた」文化を援助活動の文化に

加藤 もう一つ「急ぎすぎない」ことも重要だと思います。日本でも過去には自然の河川を加工し過ぎたりして、今になって反省が出てきていることがたくさんあります。急速な近代化には環境破壊という大きなリスクが潜んでいる、という先進国の失敗の経験も伝えていかないといいと思います。

——地域の文化とともに、環境にも配慮したきめ細かな計画立案をめざしています。

加藤 以前訪れたインドのヤムナ川※を浄化するプロジェクト（ヤムナ川流域の15都市に下水処理場等を建設し、住民の衛生環境を改善する「ヤムナ川流域諸都市下水道等整備事業」）で見た下水処理施設は、その点で大変感銘を受けました。欧米や日本でみられる無骨な建物でなく、緑があふ

る広々とした敷地内にあって、ゆっくりと時間をかけて浄化が行われて。しかも、処理で発生するメタンガスを使って発電をしたり、汚泥を肥料にして、周囲の田畑にも供給するというリサイクルシステムが確立されていました。何より素敵だったのは、現地の従業員が希望に燃えていて、誇りをもって仕事をしていることが実感できたことです。これは推測ですが、政府開発援助というと国と国の関係で話が進んでいって、どうしても「最先端を」とか「ハイテクを」という結論になりやすいのではないでしょ



うか。もしそうであれば、「自然と歩み寄って生きてきた」人間の文化を援助活動の文化にしていきたいと思います。

※インドの首都デリー（人口約1,300万人）の中心部を流れ、ガンジス川と並んで「聖なる川」と称される全長1,370kmの大河。近年、流域の人口増加や都市化で水質が悪化している。

評価を「次」に活かすことが大切

——最近ではこうした事業が本当に人々の役に立ったのかという観点から、「評価」に注力しています。事業が始まる前から完成した後まで、すべての事業を対象にポイントごとに評価することはもちろん、こうした評価を誰もがみることができ、また発言できるような体制づくりを進めています。加藤 いくつか拝見しましたが、評価をオープンにすることはとても大切なことだと思います。私も経験がありますが、現場でさまざまな課題が聞こえてくるのは、次につながるという意味でとても素晴らしいことだと思いますから。

——さらに2003年度の個別評価から、「A」「B」「C」「D」というレーティングを行って公表することにしました。

加藤 評価はどう活かされるのですか。

——評価から得られた「教訓」および「提言」は、将来行われる事業に活かされています。

加藤 人生と同じで、成功も失敗も、次にどれだけ活かしていくかが一番大切なことですからね。

——これからも多くの方々のご意見をお聞きして、「次」につなげていきたいと思っています。本日はお忙しいなかありがとうございました。

